

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800078		
法人名	有限会社 ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地 (電話番号)	久留米市城島町江上657-2 (電 話) 0942-62-1330		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	新築 / 改築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要 (11月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低 70 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院、森歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは田園風景がひろがる、静かな環境に立地している。そしてホーム内には芝生が敷き詰められた広い庭があり、屋外への活動の移行が容易に実現でき、ホームに閉じこもる事なく暮らせる環境にある。介護サービス計画の更新は、利用者の状況変化時及び3カ月に1度の頻度で行われ、計画に掲げられたサービス内容も毎日チェックしながら確実に実施している。行動障害を呈する入居者の方にも適切に対応するなど、サービスの質の向上に意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 個々の入居者の状況に応じた介護計画の立案と職員間での共有、市町村との連携、ホームの一部の鍵の解除等、改善の取り組みが実を結びつつある。残された課題としては、介護計画の作成に関して職員の意見が反映されたことを記録すること、職員の教育研修を計画的に行い、実施記録を保管すること、各種マニュアルの整備等があげられる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価の意義を理解し、管理者と職員全員で取り組んでいる。今後、改善に対して評価項目ごとに担当者を決め、責任を持って計画的に取り組むことが必要と考えられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では七夕、夏祭り、敬老会、合同運動会などの活動報告・計画について話し合われており、委員からの提案で、地域の方々とゴミの分別収集に参加する予定もたてられている。そのほか、「災害時の家族への協力依頼」に関する助言や、「ホーム職員による心肺蘇生法講習会の開催」等の要望が出ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 利用料金を現金で支払うシステムをとることで、月に1度は必ず家族に在所していただく機会をつくっている。その折に利用者の暮らしぶりや健康状態等について話をし、意見を聞いている。そのほか、年4回発行している「ほのぼの便り」では利用者の暮らしぶりを写真等で伝えている。なお、「家庭的な雰囲気壊したくない」との理由で意見箱は設置していない。今後、さらに家族との交流を深めるためにも「家族会」等の発足に期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩等の折に地域の方と挨拶を交わしたり、ゴミ拾いや地域の小学校での収穫祭に参加したり、小・中学生の職場体験の受け入れ等で地域交流を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは“ほのぼの”で暮らす方たちが“その人らしい人生”の継続の支援に取り組み地域とのつながりを大切にします」という理念を柱に、具体的に「過ごしやすい環境」、「寄りそった支援」、「職員のレベルの向上」、「利用者のその人らしい生き方」、「幸せに笑顔がでる利用者を目配り気配り心配りで笑顔での介護」等の項目を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの際に理念の実践について話し合うことで共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩等の折に地域の方と挨拶を交わしたり、ゴミ拾いや地域の小学校での収穫祭に参加したり、職場体験の受け入れ等で地域交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施及び外部評価を受けることの意義を理解し、管理者と職員全員で取り組んでいる。 昨年度の評価を活かし、地域との交流、市町村との連携、介護経過記録様式の変更、ケアプラン実施状況の記載欄追加、鍵の解除などの改善に取り組んでいる。	○	改善課題に対し、具体的な目標、目標達成に向けての行動(内容)、目標達成時期、担当者を定める等、活動計画への取り組みに期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では七夕、夏祭り、敬老会、合同運動会などの活動報告・計画について話し合われている。委員からの提案で、「ゴミの分別収集」に参加する予定となっている。その他、「災害時の家族への協力依頼」に関する助言や、「ホーム職員による心肺蘇生法講習会の開催」等の要望が出ている。	○	平成19年度の運営推進会議の開催は3月、6月、11月と開催頻度が少ない。2ヶ月に1回の開催が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が毎月、久留米市の長寿介護課に出向き、ホームの運営等で助言を受けている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業と成年後見制度のパンフレットは玄関に備え付け、必要に応じ説明しているが、制度について全職員が理解しているとは言い難い。	○	教育・研修を実施し、全ての職員が本制度について理解し、訪れた見学者、家族等に説明ができるようになることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金をホームに直接現金で支払うシステムをとることで、1ヶ月に1度は必ず家族に来所していただく機会をつくっている。その折に利用者の暮らしぶりや健康状態等について話しをし、意見を聞いている。そのほか、年4回発行している「ほのぼの便り」では利用者の暮らしぶりを写真等で伝えている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家庭的な雰囲気を壊したくない」という理由で意見箱は設置していない。家族の来所時に苦情・相談等を聞き、運営に活かそうと努めている。	○	家族からの意見を積極的に取り入れていこうという姿勢ではあるが、直接スタッフに言えない家族もいることを想定し、アンケート等で拾い上げる工夫が必要である。また、家族からの意見・苦情の対応記録を整備し、活用することに期待する。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と管理者は気軽に相談できる良好な関係が保たれている。職員採用の際は、入職前に夜勤も含めて数回勤務体験をし、利用者と顔馴染みの関係を作るよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ホームは幅広い年齢層の職員が勤めており、職員採用では性別、年齢を理由に排除しないようにしている。また、資格取得など職員の自己実現を奨励している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時に新聞記事から虐待をとりあげて話し合うなど、人権の啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制はあるが、教育研修計画がなく、研修報告の記録も少ない。	○	教育・研修計画を立案し、経験に応じた育成システムの構築を期待する。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの協会に所属し、同業者と意見交換・交流を行っており、質の向上に向け取り組んでいる。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学の機会を作り、数回通っていただく中で馴染みの関係を築いている。施設等から直接入居される方については、職員は特に声をかけるように心配りし、居室に閉じこもらないよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理、衣服のたたみ方、裁縫など利用者の培ってきた事を教えてもらう立場をとりながら支援する関係を心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「生活状況シート」にて、利用者個々の生活習慣等を詳細に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と相談の上、介護計画を作成している。職員の意見も反映されているが、明確ではない。	○	職員全員参加は難しいとしても、カンファレンスを開催し、討議内容等を記録として残すことが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを行い、家族の参加の下で介護計画が更新されている。また、変化が生じた場合はその都度見直し、計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から「外来受診の援助」、「洋服の買物」等の希望があるときはホームで柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により、かかりつけ医の受診支援を行っており、受診記録も整備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に家族から「病院よりもホームで看取ってほしい」との希望があり、数名の看取りを行っている。看取りのマニュアル、同意書は整備していない。	○	全職員が方針を共有できるように看取りのマニュアル、同意書等の整備が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルは事務所に収納し情報の保護に努めている。また、ケア提供時のプライバシー尊重に関しては勉強会等で話し合いをしている。個人情報保護についての研修は受講しているが、報告書は確認できず、マニュアル等は作成されていない。	○	教育・研修の報告書は記録として残し、個人情報保護についてマニュアル等が作成されることを期待する。
24	54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向や希望に合わせ、散歩、買物、ドライブに出かけている。その日に対応できない場合は、後日対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせ、スタッフの調理場を眺めたり、後片付けを一緒にしたりしている。行事食や誕生会等の食事については利用者の好みのメニューを聞き準備している。		
26	59	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は14時～16時30分の中で利用者の希望に合わせて入浴できるように努めている。入浴回数は夏場は週3回、夏場以外は週2回となっているが、利用者の清潔状況により随時入浴の支援をしている。	○	夕方～夜間帯にかけての入浴時間の拡大を検討中とのことで、勤務調整をする中で入浴可能な時間枠の拡大を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	元大工の方、生け花の師範の方等、利用者の培ってきたもの、能力を活かした支援をしている。利用者は日常的に洗濯物をたたんだり、料理の味見や食器の片付け、花植え等をしている。今後、畑での野菜づくり等も計画されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩のほか、年に数回であるが筑後川河川敷や柳川むつごろうランドに弁当持参で出かけている。また、屋外広場でお茶をいただいたり日向ぼっこをしたり、希望に添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、目配り・気配りにより日中は玄関に鍵をかけないよう努めている。ただし、南居室の掃きだし窓には安全確保のため鍵をかけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回計画的に実施し、災害に備え2日分の食料を備蓄している。	○	昨年、長時間の停電に見舞われたことがある。その貴重な体験をもとに地震その他の災害についても対策が講じられるよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事の摂取量、カロリー、水分摂取量は記録し、把握している。また、状態に応じた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は適度に高く、家庭的な雰囲気を壊さないように配慮され、居心地よく過ごせるように工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた家具、馴染みの物品等が持ち込まれているが、多くはない。	○	本人・家族から情報を詳細に収集し、本人にとっての馴染みの物品が何であるか、本人が居心地よく暮らせるための居室環境の整備について検討が望まれる。施設から入所される場合においても、利用者の居宅を訪問して、居室環境の検討をする取り組みに期待したい。